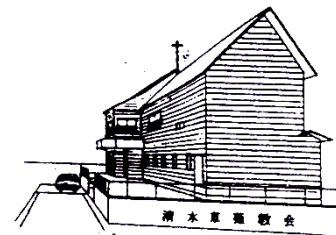


| | | |
|---------|---------|---------|
| 小田中栄太郎兄 | 小田中みち子姉 | 小田中たみ子姉 |
| 藤永祐吉兄 | 丸山友緒兄 | 宮原弥十治兄 |
| 宮原たま姉 | 若林光義兄 | 若林照代姉 |
| 渡辺数代姉 | 藤野喜作兄 | 藤野千よ姉 |
| 佐藤六郎兄 | 川畑喜平次兄 | 川畑まつ姉 |
| 大石釜弥兄 | 原田むら姉 | |

の皆さんが“聖徒の墓”に葬られています。思い出しましょう。
 ★今朝の聖書箇所、主イエスは“律法学者、パリサイ人よ”と非難をくりかえられます。さらに“へびよ、まむしの子らよ(23:33)”という怒りの言葉に続きます。その偽りの“作り上げられた正しさや美しさ”を非難して、それがどんなに神様から遠いかを暴露しておいでになるのです。真実がどこにあるか分かっている場合も分かっている場合も、私たちは“私だったら正しくあることができたのに！”と主張することができます。歴史に学ぶことができるという人ほど、“かつて、こんな間違いを犯した”といたくなるものです。しかし、今の私たちの世界は歴史の産物なのです。人も国も、それぞれの生い立ちに至るまで、先輩によって築かれたものです。正しい事柄も間違ったものもみなそうなのです。いきなり私たちが降ってわいたわけではありません。今朝私たちは、お墓に葬られている兄弟を記念しようとしています。教会の歴史を思い起こす素晴らしい礼拝です。伝統はとても大切なものです。“理由ははっきりしないがこうすることになっている。こうするところに権威があるのだ”といえるような、習慣や慣わしのことを指しているわけではありません。どんな方法で、あるいはどのような視点でそうすることになったのかを覚えておくのが伝統なのかもしれません。そうすればその続きに着手することができますし、同じ失敗はしなくて済みます。30節で“もしわたしたちが先祖の時代に生きていたなら、義人の血を流すことに加わっていなかったろう(30節)”とあります。自分たちの不義があらわになることを恐れていたのがパリサイ人なのです。この人々は自分の間違いを恐れる人たちでした。主を恐れる姿ではありませんでした。私たちの教会ですから、更に更に良くなりますように、何を恐れるのでもなく、主の道から離れることを恐れて、正しくあることを願いましょう。

週報

2008年 11月 2日



伝えよう 救い主を
 迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

| | | |
|---------|---|----------|
| 教会学校 | 毎日曜日 | 午前 9:00 |
| 礼拝式 | 毎日曜日 | 午前 10:30 |
| | (聖餐式 第一日曜日) | |
| 夕礼拝式 | 毎日曜日 | 午後 7:00 |
| エステル公会 | 毎水曜日 | 午前 10:30 |
| 聖書研究祈祷会 | 毎水曜日 | 午後 7:00 |
| ホームページ | http://kusanagi.church.jp/ | |

〒424-0885
 静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
 ☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp